

埼玉栄高等学校

総合探究部

高校生ボランティア・アワード2023



「西大宮子ども食堂SAKAE」

～地域に子どもの居場所を作る～

埼玉栄高校内で子ども食堂を自分たちで立ち上げて活動しています。きっかけはプレゼンテーションコンテスト参加のためのテーマ決めの中から、小さなころに1人で食事をしていた時の寂しさを思い出し、孤食と呼ばれる社会問題について取り組もうと決めたことです。

まず、さいたま市で子ども食堂を統括している方とオンラインでお話を伺い、近隣の子ども食堂を紹介してもらいました。

次に、ボランティアとして子ども食堂の活動に参加し経験を積みました。夏祭りの時期でもあり、出し物を通じて子どもと交流することができたことが大変心に残りました。

そこで、自分たちで子ども食堂を立ち上げることはできないかと考え、埼玉県、さいたま市それぞれの子ども食堂ネットワークのサポートを受け、2022年の12月に1回目の子ども食堂を開催することができました！



New type of child cafeteria ～学生主導の子ども食堂～

孤独を無くす団欒を

農林水産省のデータによると、日本の子どもの15%が1人でご飯を食べている現状があります。そのため、孤食を無くすことを目的に子ども食堂を立ち上げました。

しかし、食事の提供に関しては調理の専門性や衛生管理の問題、コロナ禍での様々な制限もあり、従来の子ども食堂らしい活動は難しいと考えました。

なにより、参加された保護者のアンケートの多くに「中学生・高校生が考えた出し物と一緒に遊んでくれるのが嬉しい」という意見があったことから、「地域の子どもが自由に遊べる空間を創出する」「遊びを通じて親子がコミュニケーションをとれる機会を提供する」ことを自分たちの活動の中心に置くことにしました。

その結果、新しい子ども食堂として注目され、埼玉新聞の社会面で紹介されることとなりました。



つながる 広がる 地域の輪



数字で見る 西大宮子ども食堂SAKAE

- スタッフ(部員)の人数 17人
- 参加人数(のべ) 42家族 200名
- 満足した人の割合 100%
- リピーターになる割合 94%
- 今までに企画した遊びの数 34種類
- 今までに配布したお米の総量 140kg

関わる全ての人々がハッピーになる仕組みを構築する。

今後の展望 「ローカルとグローバル」

今回、**子ども食堂**という活動を通じて地域(ローカル)について、自分たちが改めて考え、そこで生活する人々の姿を知ることができました。

それに加えて、今後は世界とつながるグローバルな活動を模索しています。

具体的には、コロナによる海外旅行の規制が解禁され、多くの外国人が日本を訪れています。そんな人たちを私たちがもてなして、日本について知ってもらうための**観光ガイドのボランティア**を計画しています。

まずは、日本のポップカルチャーの中心地渋谷から始めて、私たちの地元である大宮や川越の観光案内チャレンジしていきたいと思ひます。

ローカルとグローバルの2つの軸を中心に、活動の幅を広げていこうと思ひます。



埼玉栄中学高等学校総合探究部

創部4年目の部活動として活動しています。普段は、プレゼンコンテストへの挑戦やディベートなどを行いながらアイデアや意見を発信する練習をしています。

「社会とつながる・貢献する」をモットーに活動しています。

詳しい様子はHPを見てね！→

